

平成27年度

ブルーン病害虫防除暦

JA中野市営農センター

* スモヒメシンクイの発生園は、4月下旬にナシヒメコン(10アール当り100本)を設置する。尚、グランドプライズ以降の品種では7月上旬に再度設置する。

散布日	散布時期	散布薬剤(水 100ℓ当り)		収穫前 使用時期	使用回数 (以内)	散布量 (ℓ)	対象病害虫 (発生病害虫)	注 意 事 項
月 日	3月下旬 発芽前	① (水90ℓ) 展着剤 石灰硫黄合剤	10mℓ 10ℓ	発芽前	—	300	(ふくろみ病) (胴枯病) カイガラムシ類	①石灰硫黄合剤に代えてトレノックスフロアブル 500 倍 (収穫14日前、3回)を散布してもよい。 ②トレノックスフロアブル 500 倍を使用する場合、展着剤は、アビオンーE1000 倍かK.Kステッカー3000 倍を使用する。尚、K.Kステッカーは必ず最後に調合する。 ③石灰硫黄合剤は隣接するハウスビニールに飛散しないようにする。
月 日	落花直後	② 展着剤 フルーツセイバー	10mℓ 66mℓ	前日	3回	400	灰星病	①シンクイムシ類・(ハマキムシ類)の発生がある場合は、フェニックスフロアブル 4000 倍(前日、2回)を加用散布する。 ②フルーツセイバーに代えてロブラール水和剤 1000 倍(前日、3回)でもよい。
月 日	5月 中下旬	③ 展着剤 モスピラン顆粒水溶剤 アグレプト水和剤	10mℓ 50g 100g	前日 30日前	3回 2回	400	アブラムシ類 シンクイムシ類 黒斑病 かいよう病	①アグレプト水和剤、アグリマイシン-100、マイシン水和剤はぶどうにかかると種なし果を生じるので隣接園は注意する。 ②黒斑病の発生する場合は、再度、5月下旬にアグレプト水和剤 1000 倍(30日前、2 回)を散布する。
月 日	6月上旬	④ 展着剤 スプラサイド乳剤40 オンリーワンフロアブル アーデントフロアブル	10mℓ 66mℓ 50mℓ 50mℓ	14日前 前日 前日	2回 3回 3回	500	カイガラムシ類 灰星病 (シンクイムシ類) (ハマキムシ類) ハダニ類	①摘果果実は、腐敗病の伝染源になりやすいので土中深く埋めるか、園外へ除去する。 ②アーデントフロアブルに代えてアーデント水和剤 1000 倍(前日、3回)でもよい。
月 日	6月 中下旬	⑤ 展着剤 フrintフロアブル25 サイアノックス水和剤	10mℓ 50mℓ 100g	前日 21日前	2回 2回	500	灰星病(炭そ病) シンクイムシ類 (カイガラムシ類)	①シンクイムシ類の発生がある場合、定期防除間にイカズチ WDG1500 倍(前日、2 回)を散布する。
月 日	7月上旬	⑥ 展着剤 ナリア WDG ダーズバン DF バイスロイドEW	10mℓ 50g 33g 33mℓ	7日前 14日前 14日前	2回 2回 2回	500	灰星病(炭そ病) アブラムシ類 シンクイムシ類 ウメシロカイガラムシ	①カイガラムシ類幼虫の発生園は、アプロードフロアブル 1000 倍(14日前、2回)を散布する。 ②バイスロイドEWに代えてバリアード顆粒水和剤 4000 倍(前日、2回)でもよい。
月 日	7月中旬	⑦ 展着剤 ベルクートフロアブル カネマイトフロアブル テルスターフロアブル	10mℓ 50mℓ 100mℓ 33mℓ	3日前 3日前 前日	3回 1回 2回	500	灰星病(すす点病) ハダニ類 シンクイムシ類	①果実病害防除の重要な時期であるので果実にかかるよう十分散布する。 ②次回より果粉(ブルーム)溶脱防止及び果実汚染防止のため展着剤は使用しない。
月 日	7月下旬	⑧ オーシャインフロアブル サムコルフロアブル 10	33mℓ 40mℓ	前日 3日前	3回 3回	500	灰星病 シンクイムシ類 アメリカシロヒトリ	①カメムシ類(シンクイムシ類)が発生する場合、ダントツ水溶剤 2000 倍(3日前、3回)を加用散布する。
月 日	8月上旬	⑨ ベルクートフロアブル モスピラン顆粒水溶剤	50mℓ 50g	3日前 前日	3回 3回	500	灰 星 病 (す す 点 病) アブラムシ類 シンクイムシ類	①ハダニ類の発生がある場合は、ダニゲッターフロアブル 2000 倍(前日、1 回)を加用散布する。 ・ダニゲッターフロアブルは開花期の水稻に飛散すると不稔等の薬害を発生する場合があるので注意する。
月 日	8月中旬	⑩ サムコルフロアブル 10 フルーツセイバー	40mℓ 66mℓ	3日前 前日	3回 3回	500	シンクイムシ類 アメリカシロヒトリ 灰星病	①シンクイムシ類が発生する場合、テルスターフロアブル 3000 倍(前日、2回)を加用散布する。 ②フルーツセイバーに代えてロブラール水和剤 1000 倍(前日、3回)でもよい。
月 日	8月下旬	⑪ オンリーワンフロアブル アーデントフロアブル バリアード顆粒水和剤	50mℓ 50mℓ 25g	前日 前日 前日	3回 3回 2回	500	灰星病 ハダニ類 シンクイムシ類 アブラムシ類 モモノゴマダラノメイガ	①アーデントフロアブルに代えてスカウトフロアブル 2000 倍(前日、3回)でもよい。 ②晩生種で、灰星病、カメムシ類(シンクイムシ類)の発生がある場合、9月上旬にオーシャインフロアブル 3000 倍(前日、3回)とダントツ水溶剤 2000 倍(3日前、3回)を散布する。
月 日	収穫後 2～3回 の防除	⑫ (展着剤) ICボルドー412 他作物に飛散しないようにする。	3. 3kg	—	—	400	黒斑病 かいよう病	①ボルドー液は他作物に飛散しないようにする。 ②展着剤は、アビオンーE1000 倍かK.Kステッカー3000 倍を使用する。尚、K.Kステッカーは必ず最後に調合する。 【落葉後～萌芽前までの防除】 ①コスカシバの防除はガットキラー乳剤 100 倍(休眠期、1回)を樹幹部及び主枝に散布する。 ②カイガラムシ類の発生が多い場合は、スプレーオイル 30 倍(発芽前)を落葉後単用散布する。

安全・安心な農産物生産のために防除・使用規準を厳守しましょう。

* 農薬散布の際は、隣接園・他作物へ飛散しないようにする。